

除草剤に頼らない安全でおいしい梨づくりプラン

事業実施主体名	橋本 保		住 所	鳥取市
プラン認定日	平成17年2月2日	プラン期間	平成16年～平成17年	

1 プラン内容

(1) 概要

経営する観光農園で、①農薬散布回数削減のため、病気に強い品種への改植、②除草剤に頼らない雑草管理の取り組み（全園草生栽培）を行い、梨の品質向上を図った。環境に配慮したこだわりの梨づくりを行い、福部町の観光農業のモデルを目指している。乗用モア導入により、一層の作業省力化、雇用経費節減を図った。

(2) 取り組みポイント

- 病気に強い「おさゴールド」への品種更新と早期成園化、「橋本式短果枝栽培」の技術確立
- 乗用モア導入による作業省力化、雇用経費削減
- 安全でおいしい梨のPR

(3) 事業の概要

年度	内 容	事業費 (千円)	補助金額(千円)	
			県	市町村
H16	乗用モア（草刈機）	860	286	144
合 計		860	286	144

2 プラン実施状況

(1) 労働力、経営内容

	認 定 時	現 状 (H24)
労働力（雇用）	① 家族労力 4人 ② 雇用労力 年間150人役	①家族労力 3人 ②雇用労力 年間250人役
経営内容・規模	果樹園（梨）140a 二十世紀 100a おさゴールド 15a 晩生梨 25a	果樹園（梨）140a 二十世紀 50a おさゴールド・新甘泉 63a 晩生梨 27a

(2) 成果

農薬散布回数を削減するため、黒斑病に強い「おさゴールド」や「新甘泉」へ順次更新している。また、通路が通りやすく子供でももぎ取りしやすい高さを確保できる独自の波状棚整枝法「オールバックかざら枝4m整枝」に取り組んでいる。

また、除草剤に頼らない雑草管理として草生栽培に取り組み、すべての園で除草剤の使用をとりやめ、消費者の求める安全安心な梨栽培を実施している。

【プラン目標に対する実績】

	目標 (H16)	H16	H20	H24
二十世紀更新面積(a)	50	50	50	50
除草作業回数(回)	12	12	14	10
乗用モア除草面積(a)	100	100	100	100
草生栽培面積(a)	140	140	140	140



写真1 乗用モアによる除草作業

※除草作業(草刈り)回数は気象条件により異なる

【独自の波状棚を利用した整枝方法「オールバックかずら枝4m整枝」】

鳥取県園芸試験場が考案した仕立て方をヒントに波状棚を設置し、「オールバックかずら枝4m整枝」を平成10年から取り組んでいる（写真2）。この仕立て方に手応えを感じ、平成18年に改植した「新甘泉」の園でも同整枝法を取り入れ、合わせて26aになった（写真3）。

この波状棚の特徴は次のとおりである。

- ・大人から子供まで楽しみながら楽に収穫ができる
- ・通路の棚が高いので膝をかがめなくても立ったまま移動が可能
- ・台風等の強風に強い
- ・側枝を長期間利用することで、せん定後の誘引作業が減った

<工夫が必要な点>

側枝が太くなったら枝の吹き出しが多くなり、良い果実ができなくなるので、7～8年以上の強い側枝を更新している（※この栽培方法は県内で取り組み例がなく、試行錯誤を重ねながら挑戦している）。



写真2「おさゴールド」の波状棚整枝



写真3 新たに設置した「新甘泉」の波状棚整枝

【消費者の安心のために除草剤の使用をやめて全園草刈りを実施】

以前は省力化のため除草剤を使用していたが、消費者の除草剤に対する不安や嫌悪感を感じたため、平成10年から除草剤の使用をやめた。

除草は刈払い機での作業となるが、重労働で危険をとまうため、小型乗用モアを平成16年に導入した。1時間当たりに作業ができる面積は、刈り払い機は3～5a程度だが、小型乗用モアは15aでき、日暮れでも照明を点灯すれば作業が可能である。また、作業への小石等の跳ね上がりがなく、疲労が少なく、安全性は高くなる。

現在では140aの全てのは場で、除草剤を使用しない栽培管理に取り組んでいる。各園での除草作業は年10回以上と大変だが、除草剤を使用していた頃と比べて土が軟らかくなり、土壌物理性の改善にもつながり、「ナシの味もよくなった」と感じている。

【さらなる経営発展方向】

最近、お客さんが好まれるのは「より糖度が高く、みずみずしい梨」である。そのため、新品種の「新甘泉」の導入を進めているが、今後はお客さんの反応を見ながら栽培の割合を考える予定である。もぎ取り園用の「新甘泉」でも波状棚整枝を入れており、品種特性（花芽維持が二十世紀よりも困難）にあった仕立てに取り組んでいる。また、当初の波状棚整枝の「おさゴールド」は神奈川で開発された樹体ジョイント仕立てへ樹形改造に取り組んでいる。

家族は年々高齢化していくため、労力分散（作業が集中しない品種構成）や作業の省力化（無袋栽培など）の取り組みも進めている。

[東部総合事務所農林局]